

【2026 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
神経心理学		(リ作) 必修 (リ理) 選択	2	2	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
須永 範明	講師控室	kyoumu	随時メールで質問等受付		
授業の目的・概要	<p><目的>医療福祉分野で活躍する際に必要となる神経心理学・生理心理学の知識を習得する。具体的には、様々な心理機能と神経系の関係、および心理機能と身体の生理反応の関係についての基本的な知識を身に付けること、並びにその知識に基づき臨床的知見についての理解を深めることを目的とする。</p> <p><概要>心理学やそれに関連する学問を深く学んでいく上で、あるいは福祉やリハビリテーション等の臨床現場で働く際には、脳(神経系)と身体(生理反応)と心(行動)の関係性についての科学的な知識が必須となる。この講義では脳の構造や働きのみから始め、感覚・知覚、記憶、喜びや恐れなどの情動、やる気、異常な体験など、心の世界全般に関わる脳神経系と生理反応の知識を解説していく。なお、Microsoft Teams を用いた同時双方向型授業(オンライン授業)を行なう。</p>				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デバート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> その他 (事前学習課題・授業内小テスト)				
学習上の助言	事前に教科書と配布資料と事前学習課題で予習した上で授業に参加していただきたい。授業内で小テストを実施する。理解が及ばなかった問題を再学習していただきたい。				
教科書	生理心理学 第3版/著:岡田隆・廣中直行・宮森孝史・岡村陽子/サイエンス社/2024				
参考書	授業時に紹介する。				
外部教材	なし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	神経系の基本的な構造と働きについて説明できる。			RH(2)、(3)	
②	様々な心的機能と脳の構造・機能との関係について説明できる。			RH(2)、(3)	
③	高次脳機能障害および精神疾患と脳神経系の関わりについていくつか説明できる。			RH(2)、(3)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	オリエンテーションを行なう。続いて、生理心理学・神経心理学とは何か学ぶ。	同時双方向型授業	シラバスと教科書の該当頁、配布資料を熟読し理解する。		
2	心と体の関係についての考え方、および脳神経系のおおまかな構造について学ぶ。	同時双方向型授業	事前学習として教科書の該当頁と配布資料を熟読する。授業時に実施する小テストで自身の理解度を確認できる。事後学習として理解の十分でなかった箇所を再学習したうえで、授業内容全体を復習して理解を確かなものにする。		
3	脳を構成する基本要素である、神経細胞について学ぶ。	同時双方向型授業			
4	神経細胞間の信号伝達について学ぶ	同時双方向型授業			
5	感覚・知覚の脳機構について視覚を中心に学ぶ。	同時双方向型授業			
6	記憶の脳機構と記憶障害について学ぶ。	同時双方向型授業			
7	学習の基礎とされる脳の可塑性と長期増強について学ぶ。	同時双方向型授業			
8	情動の表出と関係の深い脳部位について学ぶ。	同時双方向型授業			
9	情動の認知と関係の深い脳部位について学ぶ。	同時双方向型授業			
10	摂食行動と関わる脳の機構および報酬系について学ぶ。	同時双方向型授業			
11	失語症等を取り上げて大脳半球機能の左右差について学ぶ。	同時双方向型授業			
12	睡眠・覚醒などの生体リズム現象をつくる脳機構について学ぶ。	同時双方向型授業			
13	心の病とその治療法の基礎にある脳の働きについて学ぶ。	同時双方向型授業			
14	脳の発達と発達障害などとの関係について学ぶ。	同時双方向型授業			
15	意識、ワーキングメモリ、潜在認知に関わる脳機構について学ぶ。	同時双方向型授業			
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照。				

【2026 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床人間学系】

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		40	0	0	0	60	100	
総合力指標	知識・技術力	35	0	0	0	30	65	
	思考・推論・創造する力	5	0	0	0	10	15	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	講義内容の理解度について学期末に定期試験を実施し評価する。授業の全範囲から出題する。専門用語を正しく理解し、それを用いて日常例（臨床例）や各現象を説明できるようにしておく必要がある。脳部位の名称、機能を正しく理解しておく必要もある。				Microsoft Teams を利用して個別にフィードバックを行う。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	第 2 回以降の授業で事前学習課題を課す。この課題に取り組み際には教科書の該当頁と配布資料を読むこととなり、事前学習が自ずと促される。また、学習への意欲と取組みの姿勢も反映される。毎回の授業で小テストを実施する。自身の理解の程度を自己確認するとともに、理解の不十分な箇所を見つけ再学習することで理解を深めることができる。				Microsoft Teams 上で事前学習課題と小テストを実施する。解答は即座に採点され、得点および各設問の正誤がフィードバックされる。	
	②	✓						
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員	なし							
教員の実務経験	なし							
実践的授業の内容	該当せず							
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ● Microsoft Teams を用いた同時双方向型授業（オンライン授業）を行なう。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。 							